

平成30年度自己評価表

1. 学校の教育目標

新潟こども医療専門学校は、学校法人新潟高度情報学園の組織の中の一つであり、その教育理念は学校教育法に基づき「商業実務および教育・社会福祉分野において専門的な知識・技術と合わせ、教養人格度の高い道義・礼節・作法をも身に付けた人材の育成」を目的とした教育機関である。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

こども未来学科・・・ 当学科はコース別授業があるため時間割の工夫を行うこと。それによって空き時間を充実させることができ、放課後の有効活用につながる。また、3年次後期から4年次前期の1年間を通した就職支援計画を学科として取り組み、4年次後期の就職活動を終えた学生への、社会人として必要な税金の知識の勉強等、範囲を広げた授業計画を立てる。最後に、養護実習・小学校教育実習の事前指導の充実である。指導技術や学校職員としての知識等の実習指導に焦点をあて指導体制を整えたい。

こども発達学科・・・ 良い点、努力している点等認め自己肯定感を高めることができるよう学生に合った方法を模索し、学生の変化や細やかな配慮、対応がないがしろにならないよう学科教員間で情報共有し同じ意識、態度で学生と向き合うことを徹底したい。コミュニケーションを生かし、現場で求められる人材育成を目指し、個々の個性と大切に向き合い有能感がもてる学生に育てていくことを心掛け対応していく。

こども学科・・・ 実習指導担当と連携を行い、自己分析、振り返り等、実習毎の課題とめあてを明確にし、現場での実践力を高めていきたい。そして、道義礼節作法に力を入れる。清掃指導を通して人のために動ける学生を育て、実習先でも愛される人材育成を目指す。学生の個性を受け止め、個々の学生の希望に沿っていけるよう努めたい。ディスカッションや社会見学、就職について考えるための時間や自主実習の機会を確保し、より有益な情報を提供し、有意義な学生生活となるようサポートする。

医療事務総合学科・・・ 体調や生活に対し情報共有し、一人暮らしなどでルーズになりやすい部分を指摘できるように、学生の様子を見守り退学者を出さないよう努める。また、就職活動は希望に沿った企業へ結び付けられることを第一と考え、学生の声に耳を傾けサポートする。その学生にとってどうすることが一番良いことかを考えていく。保護者への連絡を早めにとっていくよう行動し連携を密にする。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4 3 2 1
・ 学校における職業教育の特色は何か	4 3 2 1
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 3 2 1
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に 周知されているか	4 3 2 1
・ 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに 向けて方向づけられているか	4 3 2 1

① 課題

ここ数年、中期的構想を抱き教育課程を作成し教育活動に取り組んできたが、全国の業界ニーズの変化や学生の学力等の質の変化によって、各課程の大きな見直しがあった。理念を保ちつつ、課程について学修成果が高まるように整備し、教職員と情報公開し共有することで、学校の存在意義を明確化していくことが今後の課題となる。

② 今後の改善方策

業界における指針が改訂されたことによりそれに伴った課程も大幅に見直された。新しい指針をもとにした課程を教職員が共有し関連業界等の研修に積極的に参加することで情報収集に努める。資格・免許制度の動向を注視しつつ研修報告や情報公開を積極的に実施し、内部統制をとって連携連携体制を構築する。

③ 特記事項

特になし

(2) . 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4 3 2 1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	4 3 2 1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4 3 2 1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4 3 2 1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 3 2 1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4 3 2 1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 3 2 1

① 課題

様々な学生を受け入れ、個々への丁寧な対応を実施していることで問題が拡大化する前に解決できる反面、個々の対応の報告書作成に時間が奪われてしまう問題が出てきている。業務内容も多岐にわたりその量的な問題や質向上に向けての課題が表面化している。

② 今後の改善方策

広報、教務、事務、就職のそれぞれの分野が連携強化を目的としたミーティングや打ち合わせをこまめに実施することで、学生情報や学科ごとの情報交換、情報共有が強化され全体の現状がより明確化される。

③ 特記事項

特になし

(3-1) . 教育活動 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 (3) 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 (3) 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

学生が小学校教諭・養護教諭への就職希望を口にすることが増え全体的に公務員希望者が多い。しかし、どのように勉強を進めたらよいかわからない、学習を始めても初歩的なところでつまずき自信をなくす学生の姿が見られ、なかなか計画的に学習を進めていくことが困難な様子である。また、就職年次になる頃に公務員を目指し始め学習が間に合わない者もいる。授業以外での支援体制が必要と感じる。

② 今後の改善方策

本校で行う公務員対策とは別に学科独自に授業外で勉強する機会を設け、それぞれの学生に合った学習計画を立てられるよう支援していきたい。また、授業と目指す職種に向けた勉強が結びつかない様子があるため、そこが結びつくような授業展開や、授業外でのサポートを考えるべき。教員採用試験含めた就職試験に向けた学習のサポート体制を充実させる。

③ 特記事項

特になし

(3-2) . 教育活動 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育人人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4) 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4) 3 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育 (産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等) が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	(4) 3 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4) 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4) 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員 (本務・兼務含む) を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 (3) 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

年々、学生の能力の個人差が大きくなり、全体的な授業の進め方や、理解するのに時間がかかる
学生へのフォローの仕方に工夫が必要になってきている。また、コミュニケーション方法、礼儀作法
を身につける機会が無いまま進学してきている学生が多く、指導が必要であると感じる。

② 今後の改善方策

研修や教職員同士の情報交換により、授業方法や指導方法を見直す。また、コミュニケーション方法
や礼儀作法については、『学生にとっての身近な大人』として教職員自らが手本となるよう努める。

③ 特記事項

なし

(3-3) . 教育活動 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 (3) 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 3 (2) 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 3 (2) 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 3 (2) 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	(4) 3 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4) 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 (3) 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4) 3 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 (3) 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 (3) 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 3 (2) 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 (3) 2 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 3 (2) 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 (3) 2 1

① 課題

提携校の意図する方法での授業ならびに試験を実施することが、教員、学生にも大きな負担となり、その影響からか、全体的に授業の質が下がっているように感じる。特に2年次後期では、これまでの実習を振り返るような授業、自習のような授業が増え、それが学習意欲の低下にも繋がっている。

② 今後の改善方策

教科担当間での打ち合わせと、その内容を踏まえたシラバスの作成による授業の質の向上。
教科書の内容を板書だけするような授業は学生からも不満が多い。

③ 特記事項

学生の満足度を上げるのならば、教員（授業）の質を上げることは必須。
シラバスに沿った授業が出来ること、学生の質問や意見を受け入れる柔軟性があることは大切であり、教員の高齢化にも目を向けなければならないと思う。

(3-4) . 教育活動 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に 対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4 ③ 2 1
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の 工夫・開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・ 見直し等が行われているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、 実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 ③ 2 1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保 しているか	4 ③ 2 1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保 するなどマネジメントが行われているか	4 3 ② 1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力 育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
・ 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

（ 学生の能力は毎年度同様ではないため、特性を早くつかむことが個々に対する
指導のためには重要である。 ）

② 今後の改善方策

（ 個人ごとの理解度を把握できるようにこまめにチェックする機会を設ける。 ）

③ 特記事項

（ ）

(4-1) . 学修成果 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

併修校の学習において意欲の低下がみられる。日々の意欲の低下が将来への希望を失わせているように感じる。学修成果をあげるには学生の日々を充実させ達成感や満足感を感じられるようにする必要がある。逆に学校は楽しいが併修校の学習をやや疎かにし、のんびり過ごしている学生もいるため、こちらも学修成果が望めない状況が危惧される。

② 今後の改善方策

学年ごとに併修校が異なりそれぞれの持つ雰囲気異なる。どの学年でも学修成果があるようそのクラスにあった指導をとることが必要である。

③ 特記事項

特になし。

(4-2) . 学修成果 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	4 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 2 1

① 課題

保育系を志して当校に入学しているにもかかわらず、途中で資格取得への熱意が冷めてしまう学生がいる。人と関わるのが苦手な学生は、クラスの中や実習先で苦痛を感じやすい傾向にあると思われる。

② 今後の改善方策

資格取得への熱意が冷める理由として、学習についていけない、実習先で自分の思い描くように動けない、が主な理由として考えられる為、各学生に合った学習面のフォローや、実習中の精神的・技術的フォローが必要である。人と関わるのが苦手な学生については、行事やH.Rなどを活用し、少しずつ協力することの醍醐味を味わえるよう援助していく。

③ 特記事項

なし

(4-3) . 学修成果 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 ② 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 ② 1

① 課題

提携校の設題レポート作成の積み重ねにより、専門的な基礎知識は身につけてきているようにも感じるが、その学びを現場での実践に繋げることが出来ない。むしろレポート作成と試験の比重が大きくなったことで、実習準備、自己分析、園研究に割ける時間は短くなり、実習評価の低下に繋がっているようにも感じる。実習成果と希望する内定を得るための学びの構築が課題である。

② 今後の改善方策

実習関連授業科目担当者が連携し、実践的な内容を増やしたい。
授業時間を活用し、現場の職員（卒業生含む）から話を聞く、社会的な活動に参加するなど、教科間の連携により、教育内容の充実を図り、学修成果を高めたい。

③ 特記事項

内部実習内容の見直しにより、前年度に比べ、1年次の退学者が大きく減少（16%→6%）したことは特記に値する。

(4-4) . 学修成果 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
・ 資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
・ 退学率の低減が図られているか	④ 3 2 1
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 ③ 2 1

① 課題

資格取得や就職活動と同様に、周囲と協力しあえる社会性を集団生活の中で養うことも重要な学びである。

② 今後の改善方策

教室で定期的な席替えを行い、人間関係のきっかけを作り出し、固定の仲間にこだわらず声を掛けあえる環境を整える。

③ 特記事項

(5) . 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 3 2 1
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 3 2 1
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	4 3 2 1
・ 保護者と適切に連携しているか	4 3 2 1
・ 卒業生への支援体制はあるか	4 3 2 1
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 3 2 1
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 2 1

① 課題

（ 上記項目の評価が「3」についても、より具体的な対応ができる体制づくりが望ましい。 ）

② 今後の改善方策

（ 特になし ）

③ 特記事項

（ 特になし ）

(6-1) . 教育環境 (こども未来学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

インターネットへの接続状況が悪い。図書や教材がそろっていても活用方法がわからない学生がいる。

② 今後の改善方策

インターネットの接続状況の改善。図書や教材の活用方法について具体的に学生へ伝える機会を設ける。

③ 特記事項

特になし

(6-2) . 教育環境 (こども発達学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 1

① 課題

・ ネット環境が万全でないため、レポート提出時期は担任が教務室で印刷をするため、業務に支障をきたしている。
 ・ 実習施設と当校の方針の違いにより、学生にとって十分な教育体制が取れているとは言えない時がある。
 ・ 学校のセキュリティについて進行中。

② 今後の改善方策

実習施設の教育体制については、各実習施設と連絡を密にしたり、施設の情報を得たりして、より良い環境で学べるよう努める必要がある。

③ 特記事項

なし

(6-3) . 教育環境 (こども学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 3 (2) 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	4 3 2 (1)

① 課題

〔 ネット環境とセキュリティシステムの慢性的な不具合。現代社会における教育環境として、上記2点の慢性的な不具合は致命的。学生・保護者の満足度を追求するなら、改善は必須。 〕

② 今後の改善方策

〔 投資。 〕

③ 特記事項

〔 無し 〕

(6-4) . 教育環境 (医療事務総合学科)

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	(4) 3 2 1
・ 防災に対する体制は整備されているか	(4) 3 2 1

① 課題

〔 教室でのインターネット及びプリンターの不具合が見られる。 〕

② 今後の改善方策

〔 安定したインターネット通信環境の整備が重要となる。 〕

③ 特記事項

〔 〕

(7) . 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・ 学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

年度途中で提携大学・短期大学の変更が生じたため、4月発行済の募集要項の学費に合わせ、当校で差額を負担し志願者に影響が出ないよう調整を行い案内した。新年度に向け学費見直しが必要と考える。

② 今後の改善方策

学費については一時的な対応措置となっているため、新しい大学・短期大学の費用をもとに、適正な学費設定を検討していく。

③ 特記事項

全学科「職業実践専門課程」の認定を受けているため、教育成果等をWeb上で公開。また、パンフレットやその他広報媒体制作時にも、適切な情報提供ができるよう今後も努めたい。

(8) . 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

在校生数の減少による収入の減少

② 今後の改善方策

学生募集の強化等

③ 特記事項

特になし

(9) . 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	3	②	1
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	3	②	1
・ 自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

〔 個人情報漏洩時の対策が未整備となっている。 〕

② 今後の改善方策

〔 個人情報の保護に関しては、研修会等を実施して、教職員の意識向上を図る。
昨年度、任意保険の加入を検討したが、未加入である。今年度、再検討する。 〕

③ 特記事項

〔 〕

(10) . 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1			
	・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④	3	2
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

〔 自主的にボランティアサークルを立ち上げた学生がいたが、学生間の連携が取れず活動内容が曖昧になっている。 〕

② 今後の改善方策

〔 積極的なボランティア活動に対しても、その準備や連絡の取り方等には指導が必要である。 〕

③ 特記事項

〔 県内全域を対象に幼稚園教諭資格特例講座講座と保育士資格取得特例講座を実施した。
9月には校内で「こども祭り」を開催し、近隣の保育園・幼稚園や地域に案内をし、大勢の子どもたちが訪れ楽しんでいた。 〕

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校は、「商業実務及び教育・社会福祉分野において、専門的な知識・技術と合わせ教養人格の高い道義・礼節・作法をも身につけた人材の育成」を教育目標とし、学生指導及び学校運営を行っている。担任制を実施し、教科担当や就職担当と共に学生一人ひとりに対し、学業のみならず生活指導や就職指導等、様々な状況において手厚い指導を行っている。

ここ最近の課題は、レポートや科目終了試験等提携大学の課題の取り組み、実習等で明らかになる現場力やコミュニケーション能力の不足、精神的不安を抱えた学生の対応等である。教職員は職員会議や役職会議を通して情報共有を図り、連携しながら学校全体で学生を育てる体制を取れるよう努めている。

今年度の評価において、退学率の減少は、実習指導の見直し等学校の取り組みを評価すべき点であるが、今後ますます人間関係や健康面を不安とする学生が増えてくる可能性があり、生活環境をどこまで支援するか、健康状態をどこまで管理できるかという問題が新たに生まれてくるだろう。学校がどんな学生を育てたいのか、「卒業までに学生に求める姿」を明確にすることで、教職員がどこまで学生に踏み込み支援をしていくかの見通しが立つのではないだろうか。

「こども分野」と「医療分野」、それぞれの分野に関わる業界ニーズを学生に伝えていくことで、卒業や就職の動機付けが出来、学生自身のモチベーション維持にも繋がると考えられるため、本校はこれからも外部機関との繋がりを大切にし、常に新鮮な情報を得ていきたい。今後も教職員の研修や研究活動を充実させ、学校全体の資質向上を目指していきたい。

最後に、この点検・評価は透明性と公開性の高い評価であり、本校が「専門学校等評価基準」に基づく自己点検・自己評価活動を適切かつ適正に行っていること、及び本校の教育活動と学校運営の全てが基準を満たしていることを証明するものである。

本校はより良い教育の場であることを目指して更なる改善に努めたいと考えている。